

(1) 俳句における (2) 写実を強調した (3) 正岡子規だが、くすりとさせられる作品も少ない。そんな句ばかりをコラムニストの天野祐吉さんが選んだのが『笑う子規』である。なかには〈A パロディー〉すらある。〈めでたさも一茶位や雑煮餅〉▼ことしの正月は、一茶の〈めでたさも中位なりおらが春〉の〈B もじり〉でお茶をにこすか――。子規の心のなかまで想像して、天野さんが付け加えている。正月の句には〈雑煮くうてよき初夢を忘れけり〉もある▼〈C だじやれ〉で遊ぶ子規の句が見つかったと、本紙東京本社版で読んだ。1897年に新年会を開いて福引をし、①ケイヒン(景品)に合わせて詠んだ句だという。〈新年や昔より窮す猶窮す〉。当たったのは②キュウス(急須)のようで、「福引にキュウスを得て③発句(ほつく)に窮す」の④詞書(ことばがき)も添えられている▼前年に⑤脊椎(せきつい)カリエスの手術を受けた子規だが、このときは⑥ショウコウ(小康)状態だったようだ。弟子の高浜虚子や河東碧梧桐かわひがしへきこうらを連れ、⑦ジンリキシャ(人力車)で出かけた新年会である。病床の貧しい生活すら笑いに包み込む。弟子たちを楽しませ、自分も楽しむ姿が浮かぶ▼東京・⑧ネギシ(根岸)の家を訪ねてくる人たちと、病床の子規は交流を続けた。郷里の後輩でもある碧梧桐は、先客がいがようが病人が寝ていがようが、いつも自分の家のように上がりこんだと書いている。それでも外で会食したのは「ホンの数えるほど」だったという▼(4)〈糸瓜咲て痰のつまりし仏かな〉。子規は、痰を切るため⑨糸瓜水(へちますい)を愛用していたようだ。自分を仏に見立てた34歳の⑩ゼツピツ(絶筆)である。

〔2018年8月25日「天声人語」〕

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを書き入れなさい。

問二 傍線部(1)「俳句」の「俳」の意味を漢和辞典で調べてみよう。

(一) ①わざおぎ。芸人。「俳優」②たわむれ。ユーモア。「俳諧」

(二) ↓徘徊。(国) 俳諧・俳句の略。「俳人」「漢字典第二版」(旺文社より)

問三 傍線部(2)「写実」の観点から次の二つの和歌を比較し、感想を書いてみよう。

・春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やは隠るる (凡河内躬恒 おおしこうの みつね)

・大海の磯もとどろに寄する波割れて砕けて散るかも (源実朝 みなもと の さねとも)

〔答例〕(ありのままに描写する写実的表現を使っているのは、実朝の歌の方である。

躬恒の歌は「春の夜の闇」を擬人化して目に見えない世界を描いている)

問四 傍線部(3)と同一年の親友で、ペンネームを譲り受けた文豪は誰か?

名前を答えよう。↓(夏目漱石)

問五 〈A〉〈B〉〈C〉に次のうち適する語を書き入れよう。

・だじやれ ・パロディー ・もじり

問六 次の句の作者名を文中から抜き出して、書き入れよう。

・曳かれる牛が辻でずっと見回した秋空だ (河東碧梧桐)  
・春風や闘志いだきて丘に立つ (高浜虚子)  
・夏草やベースボールの人遠し (正岡子規)

問七 傍線部(4)の句を詠んだ時の作者はどんな心境だったか? 想像して自由に書いてみよう。

〔答例〕(自分は糸瓜水ももう飲めなくなり、やがて死んで仏になるだろう、と達観している。)